

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

マーク式

分量・難易(前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

大問数は昨年度までと同様に4題、解答数も昨年度と同様に50個で変化がない。教科書レベルを超える「やや難」の設問は散見されるものの、全体としては標準的な問題が多数を占めるのは例年通り。基礎力が重要であることは変わらない。

出題の特徴

例年**1**・**2**がヨーロッパ史中心、**3**・**4**が東アジア史(中国)とその他の地域を扱う、という問題構成をとる。今年度は、**3**でトルコ諸族史、**4**で中国史の分野が出題された。構成は概ね変化はない。2021年度以降、記述式の問題がなくなった。解答が複数になるもの、二文または三文正誤問題など、出題形式に新たな工夫もなされていたが、今年度は三文正誤問題や複数解答形式は見られなかった。

その他トピックス

2021年以降、出題形式がすべてマーク式となり、出題形式としては大きな変化が見られた。しかし難易度・大問別の出題テーマでは、大きな変化はなかった。特に難易度は標準的な問題で安定しており、高得点の争いが予想され、受験生にとってはミスがゆるされない厳しい問題といえるだろう。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	マーク式	世界史上における人々の移動と移住(古代～近世)	(1)ギリシアに鉄器が普及するのは、クレタ文明(ミノア文明)より後の時代の暗黒時代。(4) a イングランドの統一が進んだのは、アルフレッド大王より後の10世紀後半にかけてのこと。cヘースティンズズの戦い(1066)時にはデンマーク朝(1016～42)はすでに消滅していた。(10) c 清朝ではなく鄭成功らの反清勢力。(13) a 新人が出現したのは約20万年前と考えられており、約240万年前に出現したのは原人とされている。bマリ王国ではなくガーナ王国。d連れ去った黒人奴隷の数は2000万人前後と考えられている。	標準
2	マーク式	スウェーデンを中心とするバルト海地域(中世～現代)	(1)1970年代前半なので、cベトナム戦争を導くことができる。(2) a 調印場所はオーストリアのウィーンではなくアメリカ合衆国の首都ワシントン。(5) dはブラッシーの戦い(1757)のことで、北方戦争(1700～21)の時期ではない。(7) a クリミア半島進出(1774年以降)→cデカブリストの乱(1825)→dアレクサンドル2世暗殺事件(1881)→b大津事件(1891)の順だが、bのニコライ2世の皇太子時代の出来事を判断するのは難しい。(10) d 正式に併合されたアイルランドは、国家としての性格を失った。そのため大ブリテン＝アイルランド連合王国は同君連合ではない。	標準

<p>3</p>	<p>マーク式</p>	<p>テュルクの歴史 (古代～現代)</p>	<p>(2) cの西突厥は一部教科書に唐に服属したという表現があるため正解はdとしたが、「滅ぼされた」については判断に迷う。(3) dウイグルは唐ではなく東突厥から自立した。(5) aはアッバース朝ではなくセルジューク朝であるため正解となるが、cはセルジューク朝の滅亡をいつまでと捉えるかによっては正解となり得る。dもマラケシュが建設されるのはムラービト朝成立の後であるため正解になり得る。(8)①アブデュルハミト2世は自らの退位を承諾したのではなく、議会在廃位を決議してアブデュルハミト2世は退位を余儀なくされた。問2オスマン帝国の版図に短期間でも含まれたことのある地域を確認すると、アラビア半島東岸の中南部が含まれていないため、a(アラブ首長国連邦)・b(オマーン)ともに正解になり得る。また、モロッコのサアド朝がオスマン帝国を退け独立を維持していたため、d(モロッコ)も正解と判断できる。問3 aコソヴォ問題からNATO軍による空爆(1999)が行われたセルビアは、現在でもNATO非加盟国である。 ※(5)および問2については、後日、大学より選択肢の記述に不適切な部分があったため、解答の有無・内容にかかわらず、受験生全員に得点を与えると発表された。</p>	<p>やや難</p>
<p>4</p>	<p>マーク式</p>	<p>唐とその影響を受けた近隣民族 (古代～現代)</p>	<p>(1) ラテン文字ではなくシリア文字。(5) 古い順に a 加耶諸国が減ぶ(6世紀半ば) → b 百済が減ぶ(660) → d 白村江の戦い(663) → c 高句麗が減ぶ(668)となる。(9) b 唐成立は7世紀。楽浪郡と帯方郡は4世紀に消滅している。(12) dは西遼(カラキタイ)の説明。</p>	<p>標準</p>

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

出題される難問に目がいくが、高校世界史の内容をしっかりとマスターすることに集中すればよい。正誤判定の演習を積み重ねていくこと、正誤の内容を細かくチェックすること、文化史の内容も丁寧に学習することが必要となる。時期を問う問題も多いため、基本的な年号にも気をつけたい。本学部は伝統的に大問の構成がほぼ固定されているので、通史の学習を早めに終えて、個別対策に十分な時間を確保することが攻略のカギとなるだろう。